

山の寺喫茶室

必要とし、必要とされていることが実感できる場所。
「ここにくれば顔見知りとお話ができる」

《活動内容》 茶話会

《活動日時》 毎月2回
不定期開催 10:00~11:30

《活動場所》 山の寺集会所

《入室料》 1回100円
(20回1,000円の回数券あり)

《最寄りのバス停》 宮城交通
山の寺1丁目北 または 山の寺3丁目南



小正月が迫る時期にお伺いした山の寺集会所。10時ごろに開場したとの事で三々五々皆さんが集まっていました。

明るい室内とすでに集まっている参加者の方、かいがいしく飲み物やお茶請けを配っているスタッフの方でにぎやかです。冒頭に会長さんからお知らせがあり、あとは男性女性限らずお話し会です。途中でハーモニカのお披露目とそれに合わせた歌唱披露があり会場を沸かせます。



サロン運営スタッフ吉田さん

約10年前に社協役員になりました。当時は女性も少なく現在のようスタイルでも無かったが、年々現在の形になりました。月2回行われる喫茶には50名以上の方が参加します。また、運営スタッフの方たちは10名以上となります。定期的を実施することによって「あそこに行けば顔見知りとお話ができる」と皆さん来てくれます。



受付をしていた男性スタッフの方

「定期的に様々な催しをするんだ」。受付表を見せていただいたら毎月5回から7回の催し物がありました。その中に「おやじの台所」の催しがあり、詳細を聞いてみたところ「地域には男性、女性問わず独身の方が多くなってきた。男性が独身になる場合も多くあり、その際に本人はもちろん周りの方たちに迷惑が掛からないよう料理の基本を覚えるためにもいいよ」との事。今でも平均20名ほどの方たちが参加して切磋琢磨していますとの事でした。

サロン参加者さんから

「スーパーなどのお店は撤退し買い物は不便。だけど、集会所にくと小学校の同窓会みたいに受け入れてくれる人達がいるの。一人で生きているわけじゃないからね。いくつになっても感謝の気持ちと優しい心を大切にしたいよね」「お互いの元気の確認をしているんだ。来てないと、あの人どうしたかねって話しているよ」地域の方々にとってかけがえのない憩いと交流の場になっていることが伝わりました。



山の寺社協会長 大久保さん（右）

事前に机に置かれていた小林一茶の俳句「ずぶ濡れの 大名をみる 炬燵かな」の紙片についてお伺いしました。「久しぶりに会った方が、その紙片に書かれていることを切っ掛けに話が弾む工夫なんです」との事。本当に細かいところまで気を配って運営されていると感じました。

